

ナショナルトレーニングセンターの周辺のバリアフリー化促進に関する 関係省庁等連絡会議（第2回）議事録

日時：平成30年12月19日（水）17時～17時45分

場所：中央合同庁舎4号館1202会議室

出席者：

【座長】

平田 竹男 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局長

【座長代理】

今里 讓 スポーツ庁次長（代理出席）

【主査】

猪熊 純子 東京都副知事

【事務局】

高橋 一郎 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局企画・推進統括官

【構成員】

中山 友之 警察庁交通局交通規制課長補佐（代理出席）

齋藤 福栄 スポーツ庁スポーツ総括官

山上 範芳 国土交通省総合政策局次長

延與 桂 東京都オリンピック・パラリンピック準備局次長

田中 俊恵 警視庁交通部長

内田 隆 東京都北区副区長

橋本 正彦 東京都板橋区副区長

大東 和美 日本スポーツ振興センター理事長

【オブザーバー】

中森 邦男 日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会事務局長（代理出席）

大日方 邦子 日本パラリンピアンズ協会副会長

山崎 淳 東日本旅客鉄道東京支社総務部企画部長（代理出席）

木部 康久 国際興業運輸事業部長

議事：

【高橋統括官】

皆様、ありがとうございます。時間前ですがお集まりですので、早速、ただいまより「ナショナルトレーニングセンターの周辺のバリアフリー化促進に関する関係省庁等連絡会議」を開催いたします。年末の御多忙の中、お集まりいただきまことにありがとうございます。本日は、報道関係の皆様方に会議終了まで公開されておりますので、御了承いただければと思います。早速でございますが、議事の（1）当面の整備方針（案）につきまして、ワーキンググループの座長を務めていただいておりますスポーツ庁の齋藤スポーツ総括官より御説明をお願いいたします。

【齋藤スポーツ総括官】

それでは、説明させていただきます。資料1をご覧ください。四角囲みに記載のとおり、この会議におきましてワーキンググループの設置が決められまして、計2回開催しております。日本パラリンピアンズ

協会の調査報告書をもとに、それ以外にも利用が想定される箇所を含め、改めてワーキンググループにおいて検討し、関係機関による実地点検を3回実施した上で公共交通機関を利用した拡充棟へのアクセス等、バリアフリー化を段階的・継続的に進める「アクセシブルルート」を設定しまして、各施設管理者等が取り組む事項について当面の整備方針として取りまとめたものでございます。

1番目の基本的な考え方でございますが、まず、ハードの整備に当たっては、この整備方針に記載されているだけではなくて、実地点検での指摘の趣旨も踏まえながら、具体的には、関係機関等と連携・調整を図りながら進めていくということが1点目。2点目としまして、ハードの整備だけではなくて、それとあわせてソフト面、例えば情報の発信でありますとか、「心のバリアフリー」の推進等に取り組むということでございます。3点目としましては、継続的にスパイラルアップを図っていくことが重要でありまして、今後はJSC、北区、板橋区などが中心となりまして、当然、ワーキングに参加していただいております、あるいはこの本会議に参加していただいております関係機関も協力をして、継続的なスパイラルアップを図っていくことが重要であるということでございます。

2番目に、2019年6月末、これはNTCの拡充棟の整備スケジュールにあわせるということですが、ここまでに整備を目指す主な箇所として記載をさせていただいております。このほかに赤羽駅からのルートもございます。右下にアクセシブルルート等々、凡例がございますが、先ほど申し上げたルート、この地図でいいますと4ルート、板橋本町、それから本蓮沼からそれぞれ2ルートを設定いたしまして、それぞれの実地点検を踏まえて、何を改善していくかということを検討しております。記載のとおり、基本的には視覚障害者用の誘導用ブロックの設置、補修あるいは道路面の改修等、一定の整備を実施していくことを細かく検討しているところでございます。また、交差点のところでは主に音響式信号機の設置等の実施。それから、地中埋設物等の検討が必要ながありまして、6月末までを目指しますが、設置できるかどうか検討が必要なものの一部含まれております。また、板橋本町駅周辺については既に設置済みという状況でございます。

もう少し詳しい内容を資料2に基づいて御説明申し上げます。5ページにございますとおり、アクセシブルルート4ルートということで、東洋大学前ルート、清水町ルート、ハイパフォーマンスセンター西・東ということで、2つの駅から4本の色分けをしたルートを設定しているところでございます。6ページをめくっていただきますと、赤羽駅からのバスあるいはタクシーのルートを書いております。基本的な考え方3点につきましては、先ほど概要のところでも触れたとおりでございます。8ページ以降、共通する箇所が先ほど申し上げた4つのルートプラス赤羽駅ルートということで、5本のルートにつきまして、いつまでにどういうことをやるか、あるいはどういう検討をしていくかということそれぞれの箇所にあわせて記載したのになってございます。例えば8ページ、「ア拡充棟前」に「2019年6月末までに」ということで、基本的に時期が示せるものは明確にそれを書き、何をするか、誰がするかということが最後に括弧書きで書いてあるという形で記載をさせていただいているところでございます。一部、例えば9ページの下から2つ目の○、東京都交通局の場合につきましては、いろいろな条件を勘案して検討する必要があるものについては一部、明確に時期を記載せずに、検討するということが記載されているものも含まれております。以降、10ページ、11ページ等、それぞれのルートについて記載をさせていただいておりますが、時間の関係もありますので、説明については省略させていただきます。最後に16ページ、「おわりに」で書かれていまして、第1回の会議の中でも、経緯についても少し検討する必要があるだろうということがありまして、「一方で」というところに書かれていまして、それぞれ個別の検討が行われていたものの、関係者間で十分な情報共有がなされていなかったのではないかと。それから、今回の最寄り駅が北区と板橋区の異なる地域に存在するところから、地方公共団体、各交通事業者等、多くの関係者の参画によって多面的に整備計画を策定する必要があったが、そこが不十分だったのではないかとということで

ございます。このような意味から、今般、関係者が一堂に会する枠組みとして本会議が設けられ、各施設管理者等が相互に確認し、検討を進めることができたことは極めて有効であったと。これは、本日のワーキンググループ、その前の第1回のワーキンググループでも、重ねて各機関から同じようなコメントをいただいているところでございます。また、先ほどスパイラルアップということを基本的な考え方の中で触れましたが、しかしながらということで、これがゴールではなく、この地域が全国のモデルとなるよう、本整備方針に基づいて、まずは着実に整備を進めるということ。それから、この後、拡充棟の供用を開始した後、実際のパラアスリートの声等も踏まえながら、また、今回の整備方針に盛り込まれた事項だけではなくて、継続的な課題も含めまして、スパイラルアップを通じて関係者それぞれができることに継続的に取り組んでいくことが重要であるということでございます。そのような取り組みを通じまして、2020年東京パラリンピックを契機に、共生社会の実現に向けて策定された「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の実行において、今回の取り組みがモデルケースの一つとして、全国各地のバリアフリー化の推進に活用されることが期待されるということで結ばせていただいております。

さらにめくっていただきますと、先ほど申し上げた3回実施した実地点検結果についてもう少し細かいデータを記載させていただいております。3回実施しております、赤羽駅からのルート、北区、板橋区道それぞれの区道を中心ということで、3回実施しております。実は、もともと計画していなかったわけですが、第1回ワーキンググループでの意見を踏まえまして、地域の住民に参加していただくかどうかということで、各自治体の協力を得まして、パラリンピアンだけではなくて、地元の住民の障害者の方にも参加いただいて、それぞれの視点からコメントをいただき、それについて対応を検討したところでございます。全てのものが当面の整備方針の中に含まれているわけではございません。例えば「赤羽駅（改札及びコンコース）」の中の下から3つ目の●ですが、中長期的な課題としてエレベーターの設置というようなことが触れられていたり、あるいはさらに技術的な進展を踏まえた、バスがきちんとした位置に到着できるように自動運転化も将来的に考慮していくというような先進的な御意見もいただいております。実地点検においては、有識者の先生にも参加していただいております、大所高所から御意見をいただいているところでございます。今後これらのこともきちんと踏まえながら検討していくということでございます。

本日のワーキンググループの中で特にパラリンピアンズ協会様からは、実地点検の記録についてもう少し、例えばどのような状況であったかという写真を残したり、それがどう改善されていったかが後で検証できるような形に整備するというような実地点検の記録についてさらに記載内容を充実して、今後対応の方向性を含め活用すべきだという御意見をいただいております。この辺については、本日はまだ間に合っておりませんが、引き続きこの会議の中で充実を図っていくということで意見がありましたので、報告をさせていただきます。

ワーキンググループからの報告は以上でございます。

【高橋統括官】

齋藤スポーツ総括官、ありがとうございました。今、簡潔にわかりやすく報告をいただいたところでございます。

議事2、意見交換の中では、実地点検あるいは方針案取りまとめにそれぞれの皆様に精力的に御参加いただきましたので、ぜひコメント、お話を頂戴したいと思います。私のほうから御案内さしあげます。まず、国土交通省総合政策局、山上次長、お願いいたします。

【山上総合政策局次長】

国土交通省の山上と申します。まずは、今回の実地点検の結果、かなり詳細にお調べいただきまして、レポートしていただきまして、大変ありがとうございます。私ども、総論に接する機会は結構あるのですが、各論こそやはり重要であるということを改めて認識した次第です。現場の写真等を拝見したのですが、いろいろと頭の中ではわからないことがよくわかったところがございます。

他方、私ども国土交通省としては、交通事業者とともに改善を図っていかねばいけないという立場にございます。今回の整備方針に基づきまして、着実に整備が進められますよう、道路のバリアフリー化等に取り組むとともに、事業者に対しましても引き続きの対応、必要があれば、指導をしっかりとしていきたいと考えてございます。

鉄道事業者、バス、タクシー事業者における接遇あるいは介助技術の習得、向上について盛り込まれているわけではありますが、国土交通省でも、平成30年5月に交通事業者向けの接遇のガイドラインを作成し、周知を行ってきたところでありますが、まだ道半ばということで、周知の徹底をさらに強化して進めなければいけないと考えてございます。今年度は、モデルとなる研修プログラムの作成を行うこととしておりまして、さらに強化をしていきたいと考えております。

まずは、2019年6月末の拡充棟の完成に向けてしっかり取り組んでまいりたいと思います。また、先ほどお話がございましたように、その後も当事者の皆様の御意見も踏まえながら、継続的にバリアフリー化に取り組んでいきたいと考えてございます。ありがとうございます。

【高橋統括官】

ありがとうございます。警視庁交通部、田中部長、よろしく願いいたします。

【田中交通部長】

警視庁でございます。警視庁におきましては、当面の整備方針にお書きいただきましたとおり、音響式信号機やエスコートゾーン、横断歩道の設置などをナショナルトレーニングセンター拡充棟が開業する平成31年7月までに整備することとしております。整備に当たりましては、警視庁で設置いたします音響式信号機の押しボタンやエスコートゾーンと道路管理者が設置する点字ブロックとの連続性の確保に向けて連携を強化していきたいと考えております。

また、実地点検中に意見のございました勾配が大きな歩道ですとか、横断距離が長い交差点など、道路改良が必要な中長期的な課題につきましても引き続き道路管理者の方々との連携して検討してまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【高橋統括官】

ありがとうございます。警察庁交通局交通規制課、中山課長補佐、お願いいたします。

【中山交通規制課長補佐】

警察庁でございます。整備方針に記載がありますとおり、今後、警視庁におきまして、先般実施されました関係機関による実地点検の結果を踏まえて、音響式信号機等の整備を計画的に推進されていくものと考えております。警察庁といたしましても、ナショナルトレーニングセンター周辺をはじめとする、オリンピックを契機とするようなバリアフリー化事業は大変重要なものであると認識しておりまして、警視庁その他各都道府県警察と引き続き連携をしながら必要な対応に努めてまいりたいと考えております。以上です。

【高橋統括官】

ありがとうございます。続きまして、御地元の北区、内田副区長、よろしく願いいたします。

【内田副区長】

北区でございます。まず、この間の関係の皆様方の取り組みに心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

北区といたしましては、アクセシブルルートの北区道のハード整備といたしまして、ナショナルトレーニングセンター拡充棟前の3区間について、来年の6月末を目途に、歩道の路面改修や点字ブロックの連続的な設置、段差の解消や樹木の伐採などの整備を東京都、板橋区、その他関係者の皆様方と連携しながら、しっかり取り組んでまいりたいと思っております。現在、設計、積算を行いまして、整備工事の発注に向けた準備を行っているところでございます。

今後も全国各地からパラアスリートの皆さんなど多くの方々が北区西が丘のハイパフォーマンスセンターに安全、快適に訪れていただけるよう、ハード整備とともに、北区のバリアフリー基本構想でも掲げております人的対応、心のバリアフリーの推進について積極的に取り組んでまいりたいと思います。ぜひスポーツ庁初め、JSCさん、その他関係の皆様方の御協力をいただきながら、協議の場を設けていただくこともあわせてお願いしつつ、スパイラルアップを図ってまいりたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

【高橋統括官】

ありがとうございます。板橋区、橋本副区長、よろしく願いいたします。

【橋本副区長】

まず、前回の会議から今日まで、大変短い期間の中でワーキンググループ等の開催、現地の点検等々、迅速に行っていただきまして、また、このたび整備方針をおまとめいただきまして、本当にありがとうございます。関係の皆様方に感謝を申し上げたいと思います。

板橋区は、ナショナルトレーニングセンターへの玄関口ということで、都営地下鉄三田線の板橋本町駅及び本蓮沼駅からの拡充棟へ向かうパラアスリートの皆さんが安全に移動できるルートを確立するために、視覚障害者誘導用ブロックの連続的な設置、歩道の舗装の改修、段差解消などを積極的に進めてまいりたいと思っております。前回御報告申し上げましたとおり、アクセシブルルートのうち板橋本町駅からの清水町ルートの区道部分につきましては、既に先月、工事を発注いたしまして、今年度中の工事完了を目指して整備を進めているところでございます。引き続き整備方針（案）で示していただきました東洋大学前、特別区道1933号線、2970号線の路線につきましても必要な予算を確保いたしまして、ナショナルトレーニングセンター拡充棟の改修に間に合うよう、来年6月末までに工事が完了できますように対応してまいります。

また、整備方針（案）で示されました地域住民の協力のもとで、心のバリアフリーの推進につきましても、板橋区としてもユニバーサルデザインを発進していく中で、ソフト面での対応を区内全域で展開してまいりたいと思っております。具体的な手段につきましては、今後、関係の皆様方の御意見、御指導を賜りながら調整をしてまいります。誰もが暮らしやすい街となるよう尽力してまいりたいと思っております。

板橋区では、このたびのナショナルトレーニングセンター周辺のバリアフリー化の経験を踏まえて、区全域での共生社会の実現に向けて、ハード・ソフト両面からの取り組みを一層進めてまいりたいと考

えております。今後とも関係者、あるいは関係の機関の皆様にご協力を賜りながら進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【高橋統括官】

ありがとうございます。続きまして、日本スポーツ振興センター大東理事長、お願いいたします。

【大東理事長】

施設の所有者として、ハイパフォーマンスセンター周辺エリアのバリアフリー化推進のため、多くの関係機関の皆様にご協力を賜りましたことをまず感謝申し上げます。

また、今回のような取り組みが2020年東京大会を目指すアスリートの大きな力となるものと考えております。JSCとしては、本会議がより意義のあるものとするために、情報発信と皆様との連携に努めるとともに、パラアスリートにとって充実した環境を整備することで、ハイパフォーマンスセンターがスポーツを通じて地域及び国民の皆様へ愛されるトップスポーツの施設となるよう努めてまいりますので、引き続き関係機関の皆様におかれましては、御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。以上です。

【高橋統括官】

ありがとうございます。続きまして、日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、中森事務局長、お願いいたします。

【中森事務局長】

JPC 日本パラリンピック委員会の中森です。まず、今回の取り組みにかかわっていただきました政府の皆さん、地方公共団体の北区、板橋区の皆さん、企業の事業者の皆さん、JSC、パラリンピアンズ協会、JPC も関わりましたが、内閣官房の皆さんから声をかけていただいて、短期間でここまでのができたというのは本当に素晴らしいなと思っています。ハイパフォーマンスセンターを利用するパラリンピアンが怪我なく、安心して施設に移動できることが非常によかったかなと思っています。

それと、大日方さんからも出てきましたが、今回の取り組みは、ハード面のいろいろな改修、改善ということと、この取り組みがすばらしくうまくいったということも記録として残していただきたいなと。障害のある人たちが日常的に利用する施設が、短期間でここまでのができた。特に今、申しました政府も警察庁も入れてというと、随分大規模だと思うのですが、このようにうまくいった事例は日本の中で余りないような気がするので、どういう関係者がどういう取り組みをして、短い期間でうまくできた、スケジュール感もあわせて記録に残していただきたい。

来年の2019年7月にオープンするのですが、オープンしたときにハイパフォーマンスセンターの拡充棟の完成と周辺のバリアフリーの整備の報告書があわせて出ると、レガシーとして残って、同じような取り組みが必要なところで、こういうふうにやったらうまくいったのだと、こんな短い期間でできたのだというのは内閣官房としても誇るべきことかなと思いますので、ぜひいいものを残していただいて、次のレガシーとして生かしていただきたい、このように思います。どうもありがとうございます。

【高橋統括官】

ありがとうございます。それでは日本パラリンピアンズ協会大日方副会長、よろしくお願いいたします。

【大日方副会長】

パラリンピアンズ協会の大日方でございます。もう皆様からお話をいただいておりますけれども、このように短い間にこれだけ大勢の関係機関の方々の御協力と積極的な取り組みをいただいたこと、大変ありがたく思っております。私たちがこの調査報告をまとめ始めたときには、アスリートたちにとって非常に危ない場所を何とかしなければいけないという思いの中で必死に動いていたものですが、皆さんにこれだけの御協力をいただけて、さっき中森さんからもお話をいただきましたが、これだけの形にまとめ上げることができました。このことをしっかりと報告書にまとめて残していくことが必要だろうなと思っております。

先ほど齋藤統括官からお話をいただいたように、実地調査にもとづきまして改善されたこと、ビフォー・アフターがわかるような形でしっかりと改善記録が残されていれば、また次の別の街で、あるいは別の取り組みの際に良い事例として参考にされると思っております。

今回の取り組みの大きな特徴の一つは、車椅子ユーザーや、視覚に障害がある方など使う側の声を、行政や事業など関係するさまざまな機関の方々に幅広く聞いていただいて、どうすれば皆さんでこれをよりよくできるのか、ニーズに対してこう直そうという知恵を出し合ったということです。まさにここがこの調査のプロジェクトの最大の特徴だろうと思っておりますので、次につながっていくような形で残していただくことをお願いしたいと思います。

また、今後、アスリートたち、それから関係する機関の方々からも、使ってみたら実はこうだったということが出てくると思うのです。実は、15ページに記載いただいている赤羽商業高校前バス停も歩道改修を早速やっていただいたということで、先ほど午前中に伺いましたので、見てまいりました。本当に早く取り組んでいただいて、感謝申し上げます。実際にユーザーが使ってみてどうなのか。あるいは事業者の方々がバスをとめたときにこのやり方がよいのか、使いやすいものになっているのかといったことを点検していくことがまさにスパイラルアップの取り組みだろうと感じておりますので、ぜひそのあたりもよろしく申し上げます。

最後に、地域の住民の方々の理解を得るということが非常に重要なことだと思っております。ここにおきましては、私たちアスリートも積極的に協力をしてまいりまして、お願いし、一緒にパラリンピックの魅力、スポーツのすばらしさをお伝えするとともに、誰もが住みやすい街とはこういうものなのではないかという議論を一緒にしていける、そういったことを続けてまいりたいと思っておりますので、ぜひ今後もこの取り組みが生きていく枠組みがあることを期待したいと思います。ありがとうございました。

【高橋統括官】

ありがとうございます。JR東日本東京支社、山崎企画部長、お願いいたします。

【山崎企画部長】

日ごろ弊社の営業に御理解、御協力、また御指導いただきまして、大変ありがとうございます。事業区域の赤羽駅になりますが、実地点検の御指摘等を踏まえまして、弊社としては、エレベーターやハイパフォーマンスセンター方面への出口等に関する案内表示の充実を図ります。また、南口のトイレでございますが、今年出た移動円滑化のガイドラインに沿った形でリニューアルをしていくというようなハード面の対策をやっていきたくて考えております。北口はエレベーターがない出口なのですけれども、そこにおける御案内や、声かけ・サポート運動という心のバリアフリーの啓発活動に取り組んでおりますので、そ

うしたソフト面についてもさらに取り組んでいきたいと考えているところでございます。よろしくお願いいたします。

【高橋統括官】

ありがとうございます。続きまして、国際興業運輸事業部、木部部長、よろしくお願いいたします。

【木部運輸事業部長】

私どもは、赤羽駅からナショナルトレーニングセンターまでのバスルートを実行させていただいておりますが、このたびの会議で出ました課題ということで、私どもも一生懸命やってきたつもりですが、まだまだ足りないところがあったということで、大変反省をしております。特に今回課題として挙げていただきました利用者の方への案内の充実、また、バス事業における接遇、利用しやすさの向上にしっかり取り組ませていただきたいと考えております。また、実地点検にも参加させていただきましたので、その際にいろいろいただいた御意見を、今回の課題だけではなくて、しっかり受けとめまして、事業全般に拡充していきたいと考えておりますので、引き続き御指導いただきますようお願いいたします。以上でございます。

【高橋統括官】

ありがとうございました。以上の皆様方のコメントを踏まえて、スポーツ庁、今里次長、よろしくお願いいたします。

【今里次長】

スポーツ庁でございます。今回、ナショナルトレーニングセンター周辺のバリアフリー化に関する当面の整備方針の取りまとめに向けまして、ワーキンググループにおける実地点検や検討を含めまして、本連絡会議に御参加の皆様方の御尽力に対しまして、施設を整備する立場としても感謝申し上げます。

スポーツ庁といたしましては、来年度6月末と徐々に完成が迫ってまいりました拡充棟自体の整備を着実に進めるということが一つでございますけれども、同時に、今回のこの当面の整備方針に記載された事項ですとか、あるいは実地点検で指摘がなされた事項について、日本スポーツ振興センターと連携をして、引き続き取り組んでまいりたいと思います。

また、今回のバリアフリー化促進の点では、トレーニングセンター周辺のということでもありますけれども、引き続きユニバーサルデザイン2020行動計画に基づく施策、例えば私どもでいいますと、オリンピック・パラリンピック教育を通じたパラリンピックの認知度向上でありますとか、共生社会への理解向上、こういったことがあってこのバリアフリー化促進を支えることになると考えておりますので、これらにもしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

今、それぞれの関係者の皆様からいろいろとこれに至る経緯でありますとか、さらにこれからの取り組みについてお話がございましたけれども、関係者の皆様におかれましては、本整備方針に基づきまして、拡充棟の利用、供用開始に向けまして、我が国トップレベルのパラスリットが安心して拡充棟を利用できますように引き続き御協力のほど、よろしくお願いいたします。以上です。

【高橋統括官】

ありがとうございました。それでは、主査をお務めいただきました東京都、猪熊副知事、よろしくお願いたします。

【猪熊副知事】

今回の整備方針ですが、パラリンピアンズ協会の報告書を契機として、これをもとに地元の障害のある方、日本パラリンピック委員会、学識経験者など、さまざまな方から改めて御意見をいただいて、課題を抽出し、日本スポーツ振興センターを中心に道路、駅などの管理者が加わって必要な改善点を確認、調整したということです。こうした整備方針策定のプロセスにおいては、このバリアフリーに関係するさまざまな方が一堂に会してともに実地点検をし、解決策について意見交換をし、そして実効性のある対策を取りまとめるということで、こうしたプロセス、この取り組み自体が東京 2020 大会に向けて東京の街全体をバリアフリー化する取り組みのモデルケースにもなり得るものだと、大変大きな意味があったと考えております。

この会議設置を契機に私も実際に JSC の方と一緒に現地の一部ですけれども、歩かせていただいて、やはり現地に行くと歩道の狭くなっているところや、斜度が急だとか、わかることがたくさんありますので、実地点検をみんなで作るとするのは非常に効果的なのだと思います。

東京都といたしましても整備方針に示された課題の解決に向けまして、都道の段差解消あるいは地下鉄の駅の案内表示の改善など、関係者の皆様と調整を行いながらしっかり対応をしていきたいと思っております。また、今回策定された整備方針は、当面の対策ということですが、中長期的な課題についても今後、JSC が中心となって、地元板橋区や北区、各施設管理者と個別に改善について協議していくと認識しております。街のバリアフリー化につきましては、ハード面の対応とともに、例えば情報アプリなど、ICT 技術を用いた手法が有効なケースもあるのではないかと思います。今後、いろいろな中長期的な課題の解決に向けては柔軟な発想で、ハード・ソフトを組み合わせ、よりよい解決策をつくり出すことが重要かと思っております。

また、パラアスリートの皆様が安全に施設を御利用できるということとともに、地元の皆様に御理解いただくことも非常に重要だと思っております。このナショナルトレーニングセンターが地元の皆様にも末長く愛される施設となるように、今回の経験を生かして、JSC さん中心に関係機関がみんな協力をして、周辺のバリアフリー化が継続的に進むように私どもも努めてまいりたいと思っております。以上です。

【高橋統括官】

皆様、ありがとうございました。本委員会の事務局といたしましても、ワーキングの事務局の皆様方に心より御礼申し上げます。省庁あるいは施設管理者の方々はもとより、アスリートの方々、そして地域の方々に本当に一体となって実地点検を精力的にやっていただきました。本当にありがとうございました。

この委員会としては、まず当面の整備方針策ということで、来年の6月末を目指させていただきまして、これだけのものをまとめていただいたことに感謝申し上げます。そして、実地点検記録も皆様方の議論を聞いていて、非常に大事なものだ。どのような議論のプロセスでこういうことになっていったのか、あるいはビフォー・アンド・アフターをきちんと示していく、あるいは今回盛り込めなかったけれども、今後さらに時間をかけて検討していきたい、いかなければいけないこと、大事なことがたくさん入っております。実地点検記録を我々の今後の取り組み、スパイラルアップのためにも、そして、ほ

かの地域の、日本中の取り組みのためにも大事な資料となりますので、ブラッシュアップをすべきという御意見についても大変そのとおりだと思いました。

実地点検記録については少しお時間をいただきますので、もしお許しいただければ、座長に一任ということにさせていただいて、当面の整備方針につきまして、基本的には御了解いただいているのではないかと思いますので、実地点検記録について座長一任ということで、ブラッシュアップさせていただくという運びとさせていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(「異議なし」と声あり)

ありがとうございます。それでは、そういうことにさせていただきます。それでは、その前提で、本日提出させていただきました資料につきましては、今、私が申し上げた前提で公開をさせていただきたいと考えてございます。

予定しておりました議事については以上でございます。最後に平田座長から御挨拶を申し上げます。お願いいたします。

【平田事務局長】

本日は、御多忙の中、ナショナルトレーニングセンターの周辺のバリアフリー化促進に関する関係省庁等連絡会議に御出席いただきまして、ありがとうございました。この検討の立ち上げに際しましては、来年の7月に拡充棟の完成を控えながら、周辺のバリアフリーの調整が至らない状況について問題提起いただきましたパラリンピアンズ協会の河合会長、大日方副会長を初めとする協会の皆様に改めて感謝申し上げる次第であります。また、パラアスリートが結集する場でありながらも、こういった対策が十分できていなかったということにつきましても改めて反省を申し上げたいと思います。

10月下旬にこの会議を立ち上げてから、施設管理者、パラアスリートや地域の皆様など、多くの方々に実地点検、そしてまた改善の検討に精力的に御参加いただきました。その結果、短期間でここまで整理していただき、まことにありがとうございます。

当面の整備方針(案)に盛り込まれました事項につきましては、7月に向けて施設管理者において速やかに実施いただくということをお願いしたいと思います。一方、実施点検の中では、当面の整備方針(案)に含めることができなかつた中長期的に検討すべき課題も明らかになってきています。引き続き、地域の関係者と改善に向けた議論を進めていただければと考えております。

また、ワーキンググループから報告がありましたとおり、整備方針(案)の策定に至る議論の過程を、写真も含めてしっかり残すこと、こういったことが非常に重要であると考えております。これをしっかりと最後までまとめていきたいと思ひます。改めまして、本日はありがとうございました。

【高橋統括官】

ありがとうございました。今後の当会議につきましては、整備の進捗、状況の進捗等を踏まえ、また必要に応じて開催させていただきます。本日は、まことにありがとうございました。